

東神楽町

山本 貴勝

1. 概要と歴史

1.1 プロフィール

東神楽町は、旭川市に隣接する面積 68.64K m²、人口約 9,300 人の町。町を含む上川盆地一帯は北海道の米の主産地として道内外に知られ、米や野菜を中心とした農業が盛んである。

平成元年から始まった大規模宅地開発により、平成 2 年に約 5,700 人だった本町の人口が平成 12 年 5 月に 8,000 人を超え、年々増加している。

また、町内には道北の空の玄関である旭川空港があり、インフラ整備も着実に進んでいる。このほかにも、東神楽町は『花のまち』として全国的に知られ、平成 12 年の全国花のまちづくりコンクールでは最優秀賞の建設大臣賞を受賞。平成 13 年にはカナダで開催された国際コンクールに参加するなど、花を生かした美しい環境整備に力を入れている。

1.2 東神楽町のお米の歴史

開拓当初は畑作だけが行われていた東御料地だったが、明治 29 年には三井又三郎が約 2 反歩の水田を作り、2 石 4 斗の収穫をあげ、米は育たないといわれていた上川地方に新たな可能性が生まれた。

明治 35 年には初のかんがい水路が完成したが、その後大洪水と冷害に見舞われ、神楽村に増え始めた水田は再び畑に戻されてしまい麦や豆などの穀物を育て収穫を得ていたが、肥沃だった土地もいつしか衰え、収穫量にも陰りが見え始めてきた。

こうした中で、明治 42 年からかんがい施設の工事に着工。3 年後の明治 45 年、大規模なかんがい施設が完成し、以来畑作から稲作に転換する人々が増加し、低台地は造田が進み、神楽村の水田耕作はいよいよ本格的に軌道に乗り始めた。

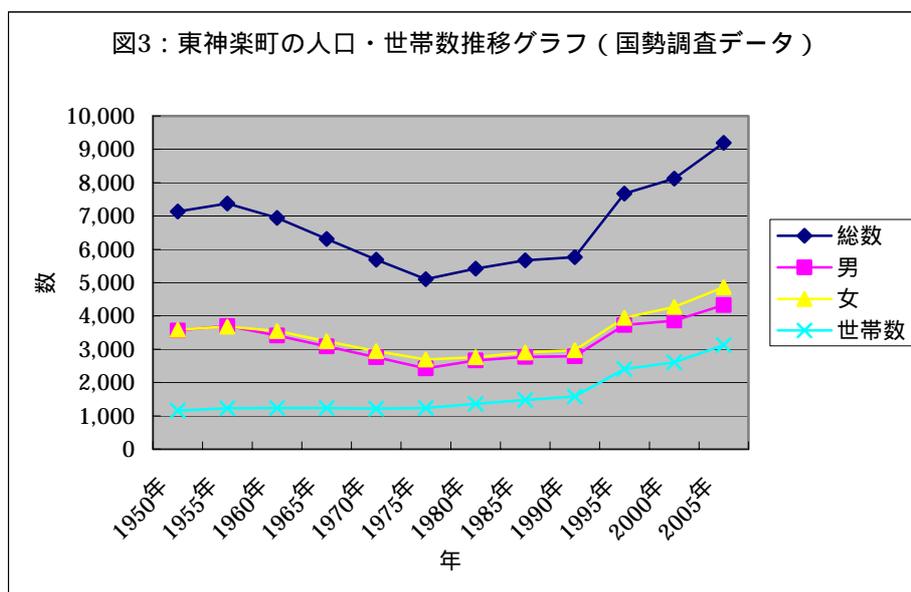
1.3 東神楽町の目指す町づくり

東神楽町では「第 7 次東神楽町総合計画」を策定し、新たな視点に立ち 21 世紀にふさわしい未来を見据えたまちづくり計画を樹立し、町の資源や特性を生かして、町民一人ひとりが安心して暮らせる環境づくりを目指すこととした。

第 7 次東神楽町総合計画では、住民同士・住民と行政が互いに手を携え、心を合わせて、それぞれの夢に向かってともに励むという決意を込め「花とゆめで心をむすぶ町ひがしかぐら」を基本テーマに掲げ、また、「住む」「働く」「学ぶ」「優しい」の 4 つの『環境』で重点目標を定め、住民とのパートナーシップによりさらに住み良い「環境」づくりを推進している。

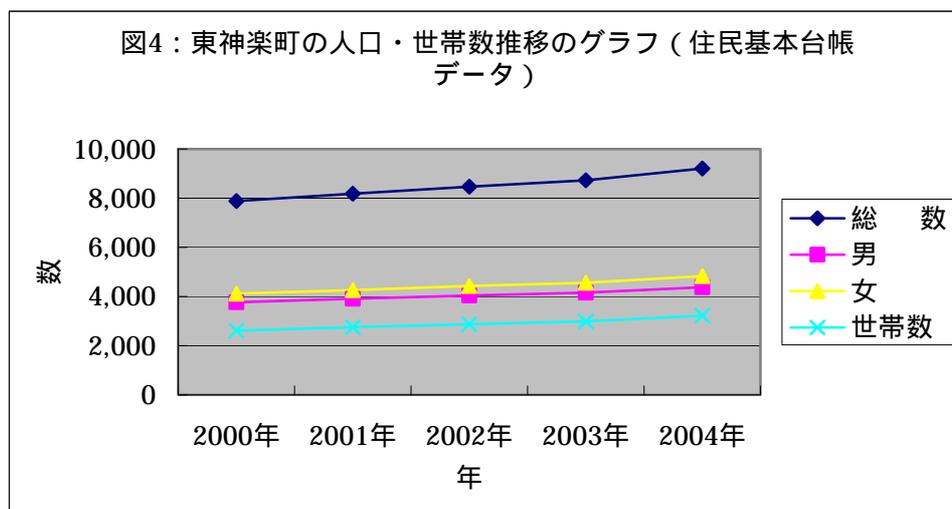
昨今、東神楽町民は、これまで築いてきた住民と行政の信頼をより強固なものとし、コミュニケーションの輪を広げ、融和と協調のまちづくりを進めている。

3. 人口・世帯数推移



出典：北海道庁 HP

上図の国勢調査による東神楽町の人口・世帯数推移のグラフを見ると、1960年辺りから1980年まで人口の総数は減少しているが、世帯数はほとんど変わっていないことがわかる。1980年の後半辺りから、人口・世帯数が共に増加していて、1990年から2000年の間にそれらが顕著に表れている。これは、おそらく1980年ごろから東神楽町に工業団地の造成・分譲が行われたこと、旭川空港にジェット機が就航し、大量の農産物の空輸が可能となったことなどが原因になっていると思う。また、1990年代に、旭川市の南東部に隣接する東聖地区が「ひじり野団地」として造成され始め、数多くの家々が軒をつらねる住宅街が誕生したことも大きく関わっているだろう。過疎化に悩む道内の市町村にとって、東神楽町のこのような発展ぶりは、画期的な出来事として注目されている。



出典：上川支庁地域政策部地域政策課統計係 HP

4. 産業

東神楽町は大雪山連峰のふもとに広がる上川盆地の肥沃な地身を生かし、北海道も有数の米どころとして知られ、稲作を中心とした農業が盛んである。

近年はグリーンアスパラやとうもろこし、ほうれん草などの野菜栽培も進められているほか、アルストロメリアなどの花卉栽培も盛んに行われている。

商工業では、『旭川家具』の一翼を担う家具生産が盛んで、工業団地内では食品加工や衣服製造などさまざまな事業所が営業している。

4.1 産業別人口

図5：国勢調査 産業（大分類）別15歳以上就業者数（上川支庁）

	総人口	就業者 総数	第一次産業				第二次産業			
			総数	農業	林業	漁業	総数	鉱業	建設業	製造業
1990年	5,763	3,072	1,220	1,211	9	-	548	1	276	271
1995年	7,676	4,021	1,101	1,088	13	-	910	1	569	340
2000年	8,127	4,031	980	977	3	-	821	-	519	302

総数	第三次産業							分類不能の産業
	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業、飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	公務（他に分類されないもの）	
1,297	7	120	389	40	17	583	141	7
2,005	13	198	581	77	8	947	181	5
2,228	14	205	599	74	8	1,116	212	2

出典：上川支庁地域政策部地域政策課統計係 HP

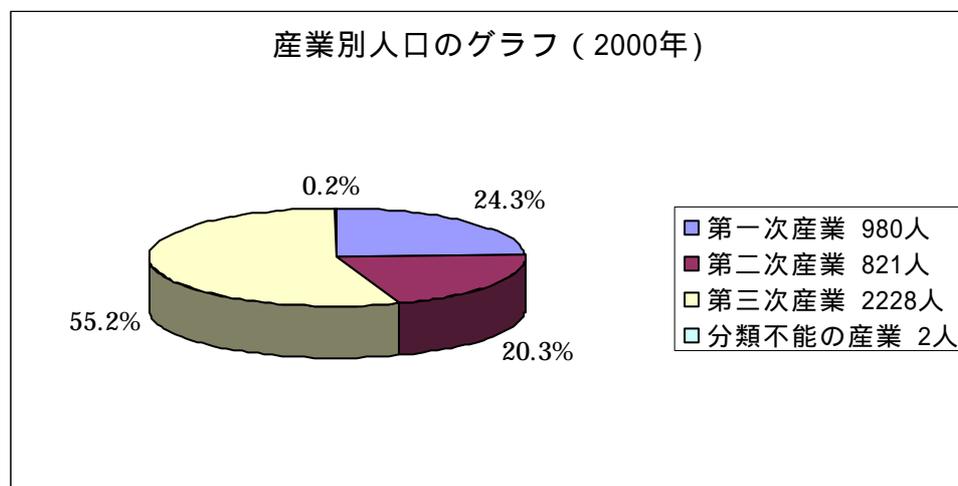


図5と上のグラフを見ると、総人口と就業者総数は年々増えているが、第一次産業は減っていて、第二次産業は1990年から1995年にかけて大幅に増えたものの、2000年には再び減り始めている。第三次産業は1995年に大幅に増え、その後も徐々に増え続けている。これは、先程も述べた1995年ごろからの住宅地の誕生の影響を受けている。だから、第一次産業の農業の就業者数が減り、代わりに、林業、建設業、卸売・小売業、飲食店、サービス業の就業者数が増えているのだろう。

4.2 農業

図6：東神楽町の耕地面積(農林水産省「平成15年(産)作物統計調査」による)

【耕地面積】	3,270 ha
田	2,430 ha
畑	840 ha
普通畑	717 ha
樹園地	0 ha
牧草地	123 ha
【作付延べ面積】	3,240 ha
【耕地利用率】	99.1 %

出典 HP：わがマチ・わがムラ HP

図7：東神楽町の農業産出額

合計	415 千万		
耕種計	358 千万	畜産計	57 千万
米	121 千万	肉用牛	2 千万
麦類	21 千万	乳用牛	55 千万
雑穀	1 千万	うち生乳	47 千万
豆類	4 千万	豚	- 千万
いも類	3 千万	鶏	- 千万
野菜	189 千万	うち鶏卵	- 千万
果実	- 千万	うちブロイラー	- 千万
花き	7 千万	養蚕	- 千万
工芸農作物	7 千万	その他畜産物	0 千万
種苗・苗木類・その他	5 千万	加工農産物	- 千万

出典：わがマチ・わがムラ HP

(* 農業産出額は、農林水産省「平成15年生産農業所得統計」。野菜は、農林水産省「平成15年産野菜生産出荷統計」。

果樹は、農林水産省「平成15年産果樹生産出荷統計」。花きは、農林水産省「平成15年産花き出荷統計調査」。

畜産は、農林水産省「畜産基本・予察調査・鶏ひなふ化羽数調査(平成16年2月1日現在)」、「畜産物流通統計調査(平成16年2月1日現在)」。

養蚕は、農林水産省「平成15年繭生産統計調査」による。)

図7を見てわかるように、東神楽町の農業産出額は主に米と野菜が大きな割合を占めている。図6の耕地面積の表を見ると、田の面積が畑の面積の約3倍になっていることがわかる。それにも関わらず、農業産出額では畑で育つ野菜の割合が多くなっている。これは、畑作に比べて、稲作の方が天候の影響に左右されやすいということが原因にある。また、生産調整による減反政策で、米の生産量などが制限されているということもその原因の一つとしてあげられるだろう。

4.3 その他

産業	
工業	製造品等出荷額：39億円、事業所数：18社、従業員数：284人（平成15年工業統計）
商業	年間商品販売額：171億円、商店数：58、従業員数：707人（平成16年商業統計）

道北の中核都市旭川市に隣接する東神楽町には、東神楽町工業団地が造成され、昭和51年より分譲が開始されている。この工業団地のメリットは、旭川空港が町内にあり首都圏及び京阪神、名古屋の3大都市圏への即日アクセスが容易であること。人口36万人をかかえる旭川都市圏にあり、優秀な労働力を確保できる点、農村地帯に位置した好環境が上げられる。また、企業の立地に際し、工業団地として多くの優遇、助成措置が受けられる。

6. 東神楽町の特産品

花

花のまちからアルストロメリアなど、美しい花が生産されている。



花の町にふさわしく、花卉の生産量も毎年増加している。

アルストロメリア、スターチス類を主品種として、道内はもとより本州各地に送られている。

食べ物

豊かな大地からの優良な素材と新技術の導入によって、東神楽のオリジナリティあふれる食品が次々と生まれ、好評を博している。



町内でとれる新鮮な農作物も利用して、味にこだわった佃煮や漬け物、お菓子など、付加価値の高い商品作りに力をいれている。

家具

全国的に有名な旭川家具の一翼を担う家具工場で、すてきなデザインの家具が生産されている。



東神楽の家具は、品質の良い道産材の美しい木目を生かしたものが多く、卓越した技術と優れたデザインは全国的にも高い評価を受けている。現在、町内では10社が家具制作に取り組み、個性豊かなオーダー家具からクラフト製品まで年間50億円の製品が全国へ送られている。

農産物

豊かな大地から、米、野菜などたくさんの農産物が育まれている。



恵まれた自然環境から生まれるグリーンアスパラ、ほうれん草、みつ葉、バイオテクノロジーを活用したイチゴなどの豊富な農産物。水耕栽培やバイオテクノロジーの技術が生かされている。

7. 観光



東神楽森林公園に待望の温泉宿泊施設「森のゆ 花神楽」が2000年7月にオープンした。施設内には大浴場、サウナ、大雪山を一望できる露天風呂のほか、レストランやリラクゼーションルームなどがある。また、宿泊棟には約60名が宿泊でき、一部には客室露天風呂が設備され、ゆったりとくつろぐことができる。

東神楽森林公園

広い敷地にさまざまな施設を備えたリゾート公園。市街地から東約8キロの所にあり、豊かな森林に囲まれている。施設はサイクリングターミナル「ブルーメン」。ここには展望塔やレストランがあるその他、サイクリングロード、遊水池、展望広場、オートキャンプ場、キャンプ場、キャンプ場は700百人収容可能な本格的施設、炊事場、ランドリー、ファイヤーサークル完備、パークゴルフ場、テキスコート、コテージ、バンガロー、キャビンなど多彩今年春に遊水池を利用した管理釣り場がオープン、道北では初の管理釣り場でルアー、フライフィッシングを楽しめる。

パークゴルフ場

市街近くの忠別川の河川敷運動公園にある36ホールのパークゴルフ場では大雪山連峰を見渡せる広々とした景観の中、川のせせらぎを聞きながら子供から大人までパークゴルフが楽しめる。東神楽森林公園にも27ホールのパークゴルフ場があり週末には大勢の人がパークゴルフを楽しんでいる。少し足を伸ばせば大雪山カントリークラブでゴルフもできてしまう。

* 参照 HP

東神楽町役場 HP : <http://town.higashikagura.hokkaido.jp/>

もっと北海道 HP : <http://motto.hokkaido-np.co.jp/>

上川支庁地域政策部地域政策課統計係 HP :

<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.jp/ka-sinko/tokei/main.htm>